未来につながる
女性とこども・家族の健康支援

こども、子育てに優しいまちづくりの推進

静岡県立大学看護学部母性看護学・助産学領域

片山歩美・藤本弥佳(看護学研究科助産学課程2年)

藤村真登・渡邉佑晟（看護学部看護学科4年）

太田尚子・中川有加・永谷実穂・福島恭子・

池田美音・髙橋明味・長屋和美・大和田裕美(静岡県立大学)

金田千依(藤枝授乳コンサルタントもぐもぐ)

研究の背景

令和5年度 藤枝市地域政策研究・創造事業
未来のための次世代支援
−親と子が健やかに成長できるまち藤枝−の成果
・親となるひとや親子、家族が専門家による情報提供を受け、安心して交流することのできる機会の創出が必要

<u>母性看護学・助産学の基盤</u>
女性を中心としたケア
家族を中心としたケア

これから親となるひとからミドル・シニア世代まで、
女性とこども・家族に関わるすべてのひとが生涯にわたって
健康に生活していくための支援が必要

研究の目的

藤枝市における親となるひとや親子、
家族に対する支援の現状を明らかにするとともに、
専門家による情報提供の機会、
親となるひとや親子、
家族が交流する機会を提供し、
こども、子育てに優しいまちづくりのために
必要な施策について検討する

研究の内容

1.藤枝市における親となるひとや親子、
家族に対する支援の現状に関する調査

1）広報ふじえだ（令和3年度～令和5年度）に掲載されているこども、
子育てに関する講座等の抽出

2）関係機関へのヒアリング

2.親となるひとや親子、家族を対象とした講座の
企画・開催とその効果の検討

1)子育てパパのおしゃべり交流会　令和6年9月7日(土)

2)アラフォーママの子育て＆健康講座 令和6年11月16日(土)

※会場はいずれも藤枝市産学官連携推進センターBiviキャン

研究の成果-1

1.藤枝市における親となるひとや親子、
家族に対する支援の現状に関する調査

1）こども、子育てに関する講座等の実態

・平日1日あたり1～8件のこども、子育てに関する催しが子育て支援センター等で開催されている

例：令和5年1月　78件（こんにちは赤ちゃん、赤ちゃん集まれなど）

→子どもの月齢・年齢を限定した催しは34件（44.9%）

・藤枝市に転入してきた未就園児とその親、ふたごとその親など、対象を限定した催しもある

・父親を対象とした読み聞かせ講座やこれからパパになるひとを対象とした『プレパパ講座』が開催されている

研究の成果-2

2）関係機関へのヒアリング

父親支援の現状と課題について(男女共同参画・多文化共生課)

・男性が積極的に子育てに参加するための知識・ヒントを得る機会として、『プレパパ講座』を開催している

・令和5年度は18組の夫婦が参加した

・妻に誘われて参加する男性が多い

・男性が参加しやすいよう工夫している

（夫婦で参加し男性・女性にわかれて話し合う、先輩パパの参加など）

子育て支援の現状と課題について（こども課）

・同地区・同学年となるこどもの母親同士のつながりを支援するために、こどもの月齢・年齢に合わせた催しを開催している

・若年や高年など母親の年齢による対象者の限定はしていない

研究の成果-3

・こども、子育てに関する催しは、多数開催されていた

・こどもの月齢・年齢、属性を限定したものはみられるが、親の属性を限定したものは限られていた

・親の年齢を限定したものはみられなかった

藤枝市の男性の約4割が夫と妻が同程度に「育児」を担うべきだと考えている
（藤枝市男女共同参画に関する市民意識等調査調査結果報告書，2021）

藤枝市における出産の約3割は35歳以上の母の出産である

（静岡県人口動態統計，2021）

・育児を担っている父親が他の父親と交流し、育児について考える機会が必要である

・母親の年齢を考慮した交流機会が必要である

研究の成果-4

2.親となるひとや親子、家族を対象とした講座の企画・開催と
　その効果の検討

1）子育てパパのおしゃべり交流会

【目的】子育てをしている父親が子育ての悩み・関心事を話し合い、
　　子育ての仲間づくりをすることができる

【参加者】小学生までの子どもを育てている父親　4名

【内容】

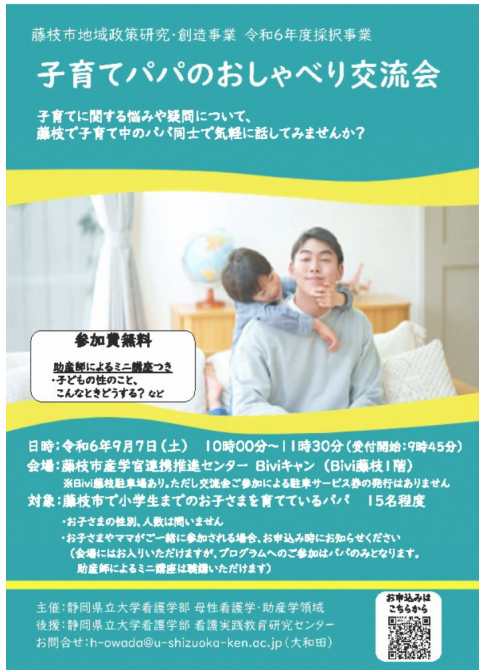
・藤枝のおすすめスポット紹介

・子育てに関する悩み、関心事の話し合い

・ミニ講義

「パパにも知っておいてほしい イマドキの性教育」

（講師：母性看護学・助産学領域助教　長屋和美）



静岡県立大学
UNIVERSITY OF SHIZUOKA

子育てパパのおしゃべり交流会　アンケート結果

参加の動機（複数回答可）	他のパパとの交流に興味があった	3
	子育てについて学びたかった	2
	子育てについて話したかった	2
交流会の内容は子育てに役立つものであったか	そう思う	4
また参加したいと思うか	そう思う	4

【自由記述より（抜粋）】
・こどもの今後のことを色々と考えて、実行してみたいと思った
・（他のパパの）家での時間の過ごし方をもっと聞きたかった

子育てをしている父親に対する
他の父親との交流機会や子育てに関する情報提供の
必要性が示唆された

2）アラフォーママの子育て＆健康講座

【目的】子育てをしている40歳前後の母親（アラフォーママ）が
子育ての悩み・関心事を話し合うとともに、
心身ともに健やかに子育てをするための知識を得ることができる

【参加者】妊娠期から子育て期にある30代～40代の女性　6名
（その他、夫・こども等同伴の家族　6名）

【内容】
・藤枝のおすすめスポット紹介
・子育てに関する悩み、関心事の話し合い
・アロマサシェ作り、ハーブティー試飲体験
・ミニ講義「素敵にエイジング」
（講師：母性看護学・助産学領域准教授　中川有加）

静岡県立大学
UNIVERSITY OF SHIZUOKA

アラフォーママの子育て＆健康講座　アンケート結果

参加の動機 (複数回答可)	同年代のママと話したかった	4
	女性の健康について学びたかった	4
	子育てについて話したかった	3
講座内容のうち、 よかったと思うもの （複数回答可）	子育てに関する悩み、関心事の話し合い	6
	ミニ講義「素敵にエイジング」	5
	アロマサシェ作り・ハーブティー試飲体験	5
また参加したいと思うか	そう思う	6

静岡県立大学
UNIVERSITY OF SHIZUOKA

【自由記述より（抜粋）】

・親同士が同年代で集まって話す機会が普段ないので、ゆっくり話をする会があるといい

・こどもと少し離れて、ママ同士で話ができてリフレッシュできた

・同年代の親と話す機会が定期的にほしい

・子育て支援センターに行っても、若いママしかいなくて気後れしてしまう。
藤枝市にもアラフォーで出産・育児している方がいると知り、
これからも交流していきたいと思った

・更年期について準備したいと思う機会になった。
同年代の先輩ママと話ができて自分だけじゃないんだと
気持ちが楽になった

子育てをしている高年齢の母親に対する
同年代の母親との交流や心身の健康に関する情報提供の
必要性が示唆された

研究の成果-5

まとめ

・藤枝市における親となるひとや親子、家族に対する支援の現状から、交流会および健康講座を企画・開催し、妊娠期から子育て期にある親に適切な情報提供と交流の機会を提供することができた

・交流会および健康講座の対象者を限定し、子育てに関する悩み・関心事の話し合いを取り入れたことで、参加者同士が共感し合い安心感をもつことにつながった

・母親だけでなく父親にも情報提供や交流の潜在的なニーズがあると考えられるが、参加を促すための工夫が必要である

藤枝市への提言

こども、子育てに優しいまちづくりのために・・・

1. こどもの月齢・年齢に合わせた親の交流機会だけでなく、
   親の属性（年齢、父親・母親等）に合わせた交流機会を設ける
2. 家族で参加しプログラム内で父親・母親・こどもにわかれる、
   会場内にこどもが安心して遊べるスペースを設けるなど、
   子育てをしている親が気兼ねなく参加できる工夫をする
3. 対象者に配慮した交流機会の提供と
   親子・家族の心身の健康に関する専門職による情報提供を
   組み合わせたプログラムを実施する